

復興農学会 第2回研究例会（南相馬市）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2020年7月27日（月） 15時00分～16時00分（研究例会）

16時00分～17時00分（懇親会）

場所 農事組合法人あいあぐり太田（福島県南相馬市原町区下太田榎町16）・ZoomによるWeb

出席者 27名

【南相馬市】大和田 英臣（あいあぐり太田代表理事）、奥村 健郎（同理事）、新田 洋司（福島大学）、石井 秀樹（同）、山内 正之（福島イノベ機構）、影山 千尋（同）、松本 佳子（同）

【web】伊藤 央奈（郡山女子大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、永吉 智己（同）、安掛 真一郎（同）、溝口 勝（東京大学）、杉野 弘明（同）、小倉 振一郎（東北大学）、内田 修司（福島高専）、本所 靖博（明治大学）、横山 正（福島大学）、石川 尚人（同）、河野 恵伸（同）、原田 茂樹（同）、林 薫平（同）、丹野 史典（科学技術振興機構）、松島 武司（福島イノベ機構）、佐藤 宏、他2名

議事録

1. 福島大学「復興知」事業の成果報告と意見交換（新田、石井）

新田、石井 准教授より南相馬市産米（あいあぐり太田産を含む）の品質・食味等の特徴について報告があり、意見交換した。

2. あいあぐり太田の紹介・事業報告と意見交換（大和田、奥村）

大和田 代表理事、奥村 理事より、農事組合法人あいあぐり太田の紹介と事業報告があった。概要は以下のとおり。

- ・個人経営では困難と考え農事組合法人を立ち上げた。7人運営し、3年目となった。活動拠点がこのたび竣工した。
- ・主要な栽培作物は水稻（55ha（慣行栽培、有機栽培、自然栽培））。ほかに、タマネギ、ダイズ、ナタネなどを栽培している。
- ・震災後、水稻の試験栽培を新潟大学、福島大学と協働で実施してきた。
- ・2013年には放射性セシウムが基準値を超過する米がでた。原因として、復旧作業中の原子炉から放射性セシウムの塵がでて降下したとの仮説が指摘されているが、原子力規制委員会は否定している。
- ・畑の上にソーラーパネルを設置し、ソーラーシェアリングの取り組みにも着手した。
- ・2014年からはナタネを栽培し、搾油を開始した。遊休農耕地の解消、6次産業化にも寄与したい。
- ・耕畜連携で家畜の糞尿を含む堆肥の利用も考えられるが、雑草の発生がネックになっており、必ずしも好適とは考えていない。
- ・食用米の品質・食味の向上が必要だ。玄米収量は10aあたり6俵であればよいと考えている。
- ・2017年からは自然栽培研究会を組織した。
- ・有機農法ではなく自然農法を目指しており、これを南相馬市のブランドにしたい。

3. 南相馬市および浜通り地域の稲作・米の状況について（大和田、奥村）

大和田 代表理事、奥村 理事より、南相馬市および浜通り地域の稲作・米の状況について紹介と報告があった。概要は以下のとおり。

- ・南相馬地域産米は、2年ほど前から地元市民が消費するようになり、拡大している。
- ・水稻品種「天のつぶ」はじめ飼料用途が多い。食用比率を上げるのが課題。
- ・食用米の品質・食味の向上が必要。

4. 復興農学愛への期待・意見交換

- ・南相馬市では飼料用米の生産量が多い。たとえば飯舘村の飯舘牛をこの飼料用米で肥育するなど、連携してブランド化を考えられないか。
- ・地域や農家だけでは農業は立ちゆかなくなっている。復興農学会に橋渡しや強い連携を期待したい。

以上

次回

事務局会議 2020年8月3日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議